

# 『炭鉱遺産を活用したともに歩むまちづくり「清水沢エコミュージアム」活動の推進』

一般社団法人清水沢プロジェクト

## 事業の目的

当法人は炭鉱遺産を活用し、地域内外の人々がともに歩むまちづくりを目指し、「清水沢エコミュージアム」として遺産の保存活用事業を展開してきました。炭鉱遺産と炭鉱由来の地域文化の中に今も生活がある清水沢地区では、そのセンターとしての役割の「清水沢コミュニティゲート」を拠点に、市民が自発的に行動しはじめるなどの動きが生まれつつあります。活動を通じ市民が活躍し、多くの心を寄せる人々とともに夕張の宝である炭鉱の記憶が地域の誇りとなるよう、活動の持続可能な運営基盤を整えていくために貴助成を申請しました。

## 炭鉱遺産の保存活用、地域資源の利活用

メインコンテンツである炭鉱遺産の保存活用、地域資源の利活用を推進するため、パンフレット・看板・のぼり等の広報物や炭鉱遺産の整備作業、公開事業等に助成金を活用しました。ガイド事業に使用するポータブル拡声器や、iPadの通信費等にも充てさせていただきました。



清水沢まちあるき (2020.6)  
昔の地図を見ながら歩く (写真提供: 夕張新聞)

## 旧北炭清水沢火力発電所公開事業「清水沢アートワークプラント」

個人の方の見学機会は、2019年は夏期5カ月半の期間中172回、2020年は62回でした。2020年は感染症対策のためほとんどの期間で道外からのお客さまをお断りしましたが、もともと道外からのお客さまが6割を占めていたことを考えると、道内の方はほとんど減っていないこととなります。本事業はコロナ禍以前より



フェイスシールドを着用したご案内 (2020)

全ての来場者と1対1の対応を行っており、歴史と価値を正しく伝え、保存活用のあり方を来場者とともに考える場としています。

## 清水沢ズリ山整備

2019年は7月、2020年は5月に地元清栄町さつき町内会と草刈り作業を行い、その後清水沢プロジェクトメンバーと有志で整備作業を行いました。階段やベンチの塗装に加えて地元企業から鉄杭と丸太資材を提供いただき、階段と鉄杭の入れ替えを行いました。



ズリ山整備 (2020)

## 宮前浴場利用推進プロジェクト

私どもの拠点である宮前地区は、旧炭鉱住宅である市営住宅の地区でした。2015年から進められた風呂なし住宅の解消とコンパクトシティを目的とした住宅集約事業終了に伴い、もと



宮前浴場利用推進プロジェクトポスター

もと炭鉱会社の地区浴場だった市営浴場の営業日が減少、さらには廃止も危惧される状況になってきました。そこで地域コミュニティの核である浴場がこれからも地域の中心であり続けられるよう、「宮前浴場利用増加プロジェクト」と銘打ち、オリジナルタオルを制作、市営浴場共通入浴券とセットで販売しました。入浴券をあらかじめ買い上げるので、実際に利用しなくても浴場の増収につながるものです。

このセットを制作したことで観光の方や大学生がフィールドワークの一環で入浴するなど、これまでにない利用を生み出しました。浴場は地域住民の公衆衛生の場であるので、現在は表立って活動していませんが、炭鉱遺産としての浴場の魅力発信は継続して行いたいと考えています。

### 清水沢コミュニティゲートの運営

2016年から夕張市から旧炭鉱住宅「旧宮コ23棟」の無償貸与を受け、「清水沢コミュニティゲート」として運営を行っています。2019年10月6日（日）に開設3周年イベントとして、本助成金の一部を使い宮前集会所での活動報告会とコミュニティゲートで3年分の活動写真の展示を行いました。

2020年は北海道からの休業要請に従う営業自粛もあり、こども食堂や食べ物持ち寄りスタイルのイベントなどは開催できていませんが、道外から来るアーティスト等の滞在希望者には、道内か施設内での2週間の待機を要請し、健康状態に問題がないことを確認した上で活動を行っていただきました。非常に厳しい条件ではありますが、地域の一員として受け入れてもらうには必要なプロセスだと感じています。



開設3周年記念イベントの活動写真展示の様子（2019）

### みんなで作る夕張の記憶ミュージアム

夕張市民が持つ過去の夕張の記憶、現在の夕張の記

録をさまざまな形で集め、今を生きるすべての夕張市民が自らの誇りを抱き、人々がつながっていく仕組み

です。写真のスキャン作業などはあまり進みませんでしたが、PRの場をいただくことも多く、「記憶をまちづくりの糧に」という考えは徐々に広まり、徐々に資料も集まりつつあります。

### 今後の展望

2019年、「清水沢エコミュージアム」の考え方を打ち立ててから10年となったのを機に、さらに今後10年の行動計画を策定し、「炭鉱遺産・地域の記憶を糧とし、地域内外の人々が相互に尊敬しあう関係を構築することで、現在と未来の住民、それに関わる人々が誇りを持てる地域をつくる」ことを目標として法人の活動を進めています。

ただ、私たちは地域への入口“ゲート”である一方で、静かな生活地を守るために観光者を自由に歩かせないなどの強固な理念を示す、地域の門番“ゲート”であるべきだとも自覚しています。来訪者が自由に歩き回るための看板やパンフレットの整備に先んじて、確固としたポリシーがあるべきだということも感じました。スタッフによる案内を前提としたまちあるきやガイドツアーなど、手軽さよりも「必ず人が媒介することによって地域を守る」ことを前提にしていきたいと思えます。

エコミュージアムの理念は常に、持続可能であることを念頭に置いています。当法人は以前からオンライン上での最小工数での情報交換やコミュニケーションの可能性を見出して活動を行ってきました。このコロナ禍で資金面を始めとした不安はありますが、常に冷静にこの状況の推移を見極め、感染症対策に万全を期しながら、その時にふさわしいふるまい方を模索していきたいと思えます。

引き続き今後も夕張市や観光事業主体を交えた話し合いを進め、持続可能な地域づくりへの理解を求めていきたいと思えます。



みんなで作る夕張の記憶ミュージアム  
ウェブサイト <https://yubarinokioku.net/>